



祐介の目

No.174

福山市医師会

福山市医師会は様々な事業を展開している。健診センターや夜間診療所、看護学校の歴史も長い。福山市議会で毎年、福山市医師会と意見交換会を開催し、抱える課題をお聞きしている。医師会は財政的に豊かな時代もあったが、現状は非常に厳しい。

例えば19時〜22時半までの夜間小児診療所はコロナ禍以降大赤字で、医師の出務手当を半額にしてもなお数百万円の赤字だ。日中、自分の診療所で診察を終えてから出務する18人の小児科医師の平均年齢は60歳に近い。休日の当番医もあり、このように激務では五年後には体制を維持できなくなると思われる。

この少子化の時代に小児科を開業する医師は稀であろうし、大学医学部や大病院の無い福山市において小児科医の供給は極めて限定的である。多くのまちで子供の医療費を

大田祐介 (福山市議会議員)

無償化しているが、サービスの提供がなくなっては元も子も無い。福山市も小児科の医師確保策や開業支援策を打ち出しているが、早急に夜間診療所支援の大方針を示さなければと感じる。

福山市医師会看護専門学校も少子化の影響で学生募集に苦慮している。昨年、看護科を閉め、定時制の第二看護学科は募集を停止した。残された全日制の第一看護学科は死守したいと聞くが、これも不透明だ。なぜなら授業料だけでは運営は難しく、国県市からの補助金を加えても足りない。医師会の筆頭事業は健診センターだが、この春に新たな健診事業所が市内に進出して来た。従来は市内3事業所だったのが4事業所となり、戦国時代の到来である。健診センターの収入で看護学校の運営費を補填してきた医師会への影響は大きい。

福山市における看護師養成が停止すれば市民病院をはじめとする多くの医療機関が深刻な看護師不足に陥るだろう。看護師養成という社会的使命を担ってきた医師会を応援するためにも職場の健診等は福山市医師会健診センターを利用していただきたい。